

2025年7月28日公表

容量市場 追加オークション約定結果 (対象実需給年度：2026年度)

2025年7月28日

電力広域的運営推進機関

1. はじめに

- (1) 容量市場の概要
- (2) 追加オークションについて
- (3) 約定結果の公表
- (4) 用語説明

2. 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

- (1) 概要
- (2) 約定総容量、約定価格、約定総額
- (3) 約定総容量、約定総額
- (4) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量抛出金（試算）
- (5) 需要曲線と供給曲線
- (6) 発動指令電源の調整係数

3. オークション結果の集計・公表

- (1) 供給信頼度
- (2) 電源等の応札容量
- (3) 応札容量と落札容量（落札率）
- (4) 発電方式別の応札容量
- (5) 落札されなかった電源の応札容量
- (6) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量抛出金（試算）
- (7) 応札価格の加重平均
- (8) 応札価格の分布
- (9) 追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力
- (10) 追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

4. オークション結果の推移

- (1) 調整機能あり電源の契約容量

参考：各種資料等参照先

1. はじめに

(1) 容量市場の概要

3

【全体】

■ 容量市場とは

- ✓ 容量市場とは、電力量 (kWh) ではなく、将来の供給力 (kW) を取引する市場。
- ✓ 将来にわたる我が国全体の供給力を効率的に確保する仕組みとして、発電所等の供給力を金銭価値化し、多様な発電事業者等が市場に参加していただき供給力を確保する仕組み。

■ 容量市場導入の目的

- ✓ 発電事業者等に支払われる容量確保契約金額によって電源投資が適切なタイミングで行われ、予め必要な供給力が確実に確保されるようにすること。
- ✓ 卸電力市場価格の安定化を実現することで、小売電気事業者等の安定した事業運営を可能とするとともに、電気料金の安定化により需要家にもメリットをもたらすこと。

(※概要説明ページ)

- 【かいせつ容量市場スペシャルサイト】 <https://www.occto.or.jp/capacity-market/>
- 【容量市場説明会資料・動画】 https://www.occto.or.jp/market-board/market/youryou_setsumeikai.html

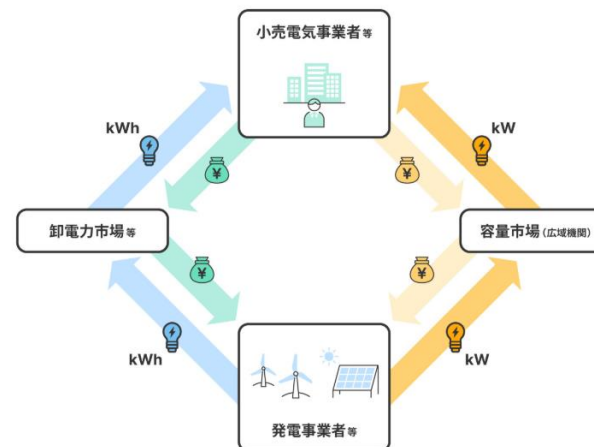
【各市場で取引される価値】

電源等の価値*	取引される価値 (商品)	取引される市場
電力量 【kWh価値】	実際に発電された電気	卸電力市場 (スポット、ハースト市場等)
容量 (供給力) 【kW価値】	発電することが出来る能力	容量市場
調整力 【ΔkW価値】	短時間で需給調整できる能力	調整力公募 →需給調整市場
その他 【環境価値**】	非化石電源で発電された電気 に付随する環境価値	非化石価値取引市場

* 上図は電源を想定して記載しているが、ネガワット等は需要制御によって同等の価値を生み出すことが可能。また、一つの市場において、複数の価値を取り扱う場合も考えられる。

** 環境価値は非化石価値に加えて、それに付随する様々な価値を包含した価値を指す。

出典: 第69回 電力・ガス基本政策小委員会 (2024年1月22日) 資料3より



1. はじめに

(2) 追加オークションについて [1/2]

【追加オークション】

4

■ 追加オークションとは

- ✓ メインオークション実施後の想定需要の変化や供給力の変化を踏まえ、必要と判断された場合に、実需給年度の1年前に実施するオークション。
- ✓ 必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に不足が認められた場合に、追加で容量提供事業者を募集する「調達オークション」を実施。
- ✓ 必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に余剰が認められた場合に、容量確保契約に定められた容量をリリースする容量提供事業者を募集する「リリースオークション」を実施。

■ 調達オークションの参加対象電源

- ✓ 調達オークションへ参加対象となる電源等は、調達オークション開催エリアにおいて、実需給年度に供給力を提供できる安定電源・変動電源・発動指令電源。メインオークションと同様に、相対契約を締結している電源等も容量市場に参加することが可能。
- ✓ 応札可能な電源等の容量は、メインオークションで入札して落選した非落札の電源等の容量、およびメインオークション時に実需給年度における供給力の提供が確定していなかった未応札の電源等の容量※1,2。

※1：メインオークションにて落札した発動指令電源は、実効性テストにより期待容量の評価を行い、実効性テスト後の期待容量と契約容量の差分が1,000kW以上の場合は、当該容量が調達オークションへ応札可能。

※2：電源等差替を行った差替元電源については、差替容量分が応札可能となる場合あり。

■ リリースオークションの参加対象電源

- ✓ リリースオークションへ参加対象となる電源等は、リリースオークション開催エリアにおいて、実需給年度を対象としてメインオークションで落札した全ての安定電源・変動電源・発動指令電源。
- ✓ 応札可能な電源等の容量の最大値は、以下のとおり。
 - 部分リリースの場合は、容量確保契約の契約容量を上限として、契約容量から応札容量を差し引いた値が1,000kW以上となるように応札情報を登録。約定後の契約容量が1,000kW未満（1～999kW）となる場合は、応札情報の登録不可。
 - 全量リリースの場合（契約容量から応札容量を差し引いた値が零kW）は容量確保契約の全ての容量。

- 電力広域的運営推進機関では、2025年度の容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）について、2025年3月から参加登録受付を開始し、4月に追加オークションの実施を決定して、6月に追加オークションの応札受付を行ったところ。

➤ **実施したオークション：調達オークション（全国）**

- この度、業務規程および募集要綱に定めるところにより、約定結果を公表する。
- 公表にあたっては、容量市場の在り方等に関する検討会において、市場競争の状況の検証のため、事業者の経営情報（個別電源の応札価格など）の扱いや個社情報が特定されないようにすること※等に留意した集計方法を取りつつ、オークション結果の集計・公表を行うこととされている。

※ 個社情報の特定に至らないよう、原則として3者以上のデータで構成されるよう集計する。

- なお、本資料の集計において、端数処理の関係で合計が合わないことがある。
- 一部の内容については、追加オークションの結果だけではなく、容量市場全体の状況を集計している。

凡例（ページ右肩）：

【追加オークション】

追加オークションの結果

【全体】

容量市場全体の状況

＜電力広域的運営推進機関 業務規程＞

（メインオークションの約定結果の公表）

第32条の18 本機関は、メインオークション募集要綱に基づき、次の各号に掲げる事項を本機関のウェブサイトへの掲載等の方法によって公表する。

- 一 約定総容量
- 二 約定価格
- 三 約定総額
- 四 その他公表すべき事項

（調達オークション実施の場合のメインオークションに関する規定の準用）

第32条の22 第32条の12（第32条の12第1号アを除く。）及び第32条の14から第32条の20までの規定は、調達オークションを実施する場合に準用する。この場合において、「メインオークション」とあるのは、「調達オークション」と読み替えるものとする。

＜容量市場追加オークション募集要綱＞

（対象実需給年度：2026年度）

第6章 調達オークション落札電源および約定価格の決定方法

4. 約定結果の公表

調達オークションの約定結果が判明した後、本機関は以下の情報を公表します。公表時期は、「第2章 共通事項 3.追加オークション募集スケジュール」を参照ください。

- ・ 調達オークション開催エリア（全国、各エリア）毎の約定総容量、約定価格および約定総額
- ・ 落札電源毎の、当該電源の容量提供事業者名、電源ID（応札単位の附番（※））、落札容量
※応札した電源等に対して、容量オークションごとに設定

＜参考＞ 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）のスケジュール

【追加オークション】

	2024年度							2025年度						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
① 関連文書 ・ 説明会	【募集要綱】 【業務マニュアル】 (参加登録・応札 ・契約締結編) パブ コメ パブコメ 対応 ▲容量市場追加オークション募集要綱公表 1月30日 ▲業務マニュアル公表 2月5日 事業者向け説明会 2月14日													
② 参加登録	事業者情報の登録 3月3日～3月7日 期待容量の登録 4月8日～4月25日 電源等情報の登録 3月3日～3月21日													
③ 需要（供給） 曲線 実施判断 ・ 応札	▲実施判断 4月23日 応札の受付 6月4日～6月16日 期待容量等算定諸元一覧の 登録受付 6月17日～6月23日													
④ 約定結果 ・ 契約書締結	約定結果の公表▲ 7月28日 本資料で説明 容量確保契約書締結の手続 8～9月頃 容量確保契約の結果公表 10月頃													
⑤ その他	実効性テスト（夏） 実効性テスト（冬） 容量停止計画の調整 ▲供給計画に基づく 需要想定更新 ▲容量確保契約の変更または解約の確認期限日 1回目 ベースロード市場開催													

1. はじめに

(4) 用語説明 [1/4]

【全体】

8

用語	説明
実需給年度	容量確保契約に基づき、供給力を提供する年度。
容量オークション	メインオークション、追加オークション（調達/リリースオークション）、および長期脱炭素電源オークションの総称。
メインオークション	メインオークションで募集する供給力を調達するため、実需給年度の4年前に実施する入札。
追加オークション	調達オークションおよびリリースオークションの総称。
調達オークション	追加オークションのひとつで、必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に不足が認められた場合に、追加で容量提供事業者を募集する入札。
リリースオークション	追加オークションのひとつで、必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に余剰が認められた場合に、本機関との間で締結した容量確保契約に定められた容量をリリースする容量提供事業者を募集する入札。
長期脱炭素電源オークション	長期脱炭素電源オークション募集要綱で定める供給力を調達するために実施する入札。

1. はじめに

(4) 用語説明 [2/4]

【全体】

9

用語	説明
電源等の区分	オークション参加対象となる電源等の区分であり、以下の4つ。
安定電源	期待容量が1,000kW以上の安定的な供給力を提供するもの。 例：火力、原子力、水力（ただし、調整式または貯水式に限る）、水力（ただし、揚水式で発電可能時間3時間以上に限る）、蓄電池（ただし、放電可能時間3時間以上に限る）、地熱、バイオマス、廃棄物
変動電源 （単独）	期待容量が1,000kW以上の供給力を提供する自然変動電源。 例：水力（ただし、安定的に供給力を提供できるものは除く）、風力、太陽光
変動電源 （アグリ ゲート）	単体の期待容量が1,000kW未満の自然変動電源を組み合わせることにより、期待容量1,000kW以上の供給力を提供するもの。 例：水力（ただし、安定的に供給力を提供できるものは除く）、風力、太陽光
発動指令 電源	デマンド・レスポンス（DR）、安定的に供給力を提供できない期待容量が1,000kW以上の電源、および単体の期待容量が1,000kW未満の電源を組み合わせることにより、期待容量1,000kW以上の供給力を提供するもの。
応札容量	容量オークションに参加する事業者が応札時に提示する、供給力として提供を希望する容量（単位 kW）。
期待容量	設備容量のうち、供給区域の供給力として期待できる容量の最大値で、設備容量から補機等の構内需要電力や外気温による出力低下分等を差し引いたもの。
調整係数	再エネや一般水力、揚水、蓄電池、発動指令電源の供給力評価を表す指標で、供給信頼度の評価において各電源の導入により安定電源の必要量と同等に評価できる供給力を安定電源代替価値として反映したもの。 容量市場において調整係数が設定される電源の調達量（kW価値、期待容量）については、導入量に調整係数を乗じた容量とする。

1. はじめに

(4) 用語説明 [3/4]

【全体】

10

用語	説明
約定処理	全国市場の約定処理において、全国の需要曲線および供給曲線の交点における電源を確認し、需要曲線上の交点における全国の供給信頼度をもとに、約定処理上の市場分断の判断を行う。 約定処理上の市場分断と判断された場合については、約定処理上の市場分断処理を行い、落札電源および約定価格を決定する。 エリアごとに調達オークションを実施する約定処理においては、当該エリアの目標とする供給信頼度に応じて追加処理・減少処理を行い、落札電源および約定価格を決定する。【メインオークション同様】
約定処理上の市場分断	全国市場の約定処理において、全国の需要曲線および供給曲線の交点における供給力をもとに算定した供給信頼度から各エリアの不足ブロック（エリア）・充足ブロック（エリア）について確認を行い、異なるブロック（エリア）が生じた場合については、約定処理上の市場分断と判断する。【メインオークション同様】
約定処理上の市場分断処理	全国市場の約定処理において、不足ブロック（エリア）と判断されたブロック（エリア）では追加処理、充足ブロック（エリア）と判断されたブロック（エリア）では減少処理を行う。 追加処理では、供給曲線上の交点の電源後で当該ブロック（エリア）における応札価格が最も安価な電源を1つ追加し、約定処理上の市場分断の判断、ブロック再構成、エリアプライスの更新を繰り返し行う。追加処理は、不足ブロック（エリア）が解消されるもしくは追加可能な電源がなくなった時点で処理を終了する。 減少処理では、供給曲線上の交点の電源以前で当該ブロック（エリア）における応札価格が最も高価な電源を1つ減少し、約定処理上の市場分断の判断、ブロック再構成、エリアプライスの更新を繰り返し行う。減少処理は、追加処理により増加した供給力と同量を減少した場合もしくは減少により供給信頼度が確保できなくなった時点で処理を終了する。 【メインオークション同様】
供給信頼度	電力供給の信頼性を表す指標で、需要1kWあたりの年間供給力不足電力量（単位：kWh/kW・年）の期待値（EUE）を指標とする。
エリア	一般送配電事業者が託送供給等約款により定める供給区域。
不足エリア・充足エリア	全国の供給信頼度に対して供給信頼度が確保できていないエリアを不足エリアと呼ぶ。また、全国の供給信頼度に対して供給信頼度が確保されているエリアを充足エリアと呼ぶ。
ブロック	約定処理上の市場分断の結果、連系線で直接接続された複数エリアが「不足エリア」もしくは「充足エリア」となった場合にその複数のエリアを1つのブロックと呼ぶ。

用語	説明
エリアプライス	シングルプライスオークションにより約定価格を決定する。 不足ブロック（エリア）は、マルチプライスが適用される場合を除き、当該ブロック（エリア）が充足ブロックとなる際に追加した電源の応札価格もしくは追加処理において最後に追加した電源の応札価格をエリアプライスとし、充足ブロック（エリア）は、当該ブロック（エリア）から減少した電源の次に当該ブロック（エリア）内で高価な電源の応札価格をエリアプライスとする。
マルチプライス	市場競争が限定的となっているおそれがあるエリアにおいて、当該エリアのエリアプライスが隣接するエリアのエリアプライスの1.5倍を超えた場合、隣接するエリアプライスの1.5倍を当該エリアのエリアプライスと設定し、それを上回る価格で応札されている電源等については、それぞれの電源等の応札価格をもって約定価格とする。
経過措置	電源等の区分が安定電源および変動電源（単独）を対象に、容量確保契約金額に対して、「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」により、支払額を減額するもの ① 「電源等の経過年数に応じた控除」は、2010年度末以前に建設された電源の容量確保契約金額に対して、一定の控除率（対象実需給年度：2026年度では6.0%）を設定して、支払額を減額する。 ② 「入札内容に応じた控除」は、オークション応札時の応札価格が、約定価格に一定の係数（対象実需給年度：2026年度では85.6%）を乗じた価格以下だった電源の容量確保契約金額に対して、支払額を減額する。 ③ ただし、オークションの個々の電源の約定価格が、同指標価格の50%※以下となった場合は、「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」を行わない。 ※同指標価格の50%の値にて円未満を切り捨て ④ また、オークションの個々の電源の約定価格が、同指標価格の50%を超えており、かつ「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」の経過措置を適用した際に、同指標価格の50%以下となる場合は、当該電源の経過措置適用後の価格が同指標価格の50%の価格となるように、経過措置による控除額を調整する。 ⑤ ③④については、対象実需給年度が2025年度のメインオークションにおける契約電源では適用しない。
Net CONE （指標価格）	新規発電設備の固定費用から電力量取引やアンシラリーサービスによる収益を差し引いた正味固定費用（CONE = Cost of New Entry）。

2. 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

12

（1）概要

【追加オークション】

- 2025年度 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）は、以下の結果となった。
 - 約定総容量※1 : 830 万kW（8,297,383kW）
 - エリアプライス
 - 北海道/東北/東京/中部 : 8,749 円/kW
 - 北陸/関西/中国/四国 : 8,213 円/kW
 - 九州 : 8,591 円/kW
 - 経過措置を踏まえた約定総額 : 582億円（58,224,982,042円）
 - 特記事項
 - ✓ 約定処理の過程※2で北海道/東北/東京/中部、九州、その他のブロック（エリア）となった。
 - ✓ 発動指令電源の調整係数反映前※3の応札容量は、メインオークションにおける応札上限容量※4を超過しなかったため、全電源を落札候補として約定処理を行った。
 - 落札電源一覧（応札事業者名、電源ID※5、落札容量[kW]）については別紙に示すとおり。

※1 追加オークション実施判断時に確保済みの供給力（全国計で1億8,062万kW）を含む総容量は1億8,892万kW。

※2 約定処理においては、全国市場における全国の供給信頼度および各エリアの供給信頼度にもとづき約定処理上の市場分断を行う。
約定処理上の市場分断については「＜参考＞ 約定処理上の市場分断について（p.19）」を参照。

※3 発動指令電源の調整係数については「（5）発動指令電源の調整係数について（p.22～p.23）」を参照。

※4 調達オークションにおける応札上限容量は、各エリアにおける「追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）」の1%（北海道エリアを除く）。追加オークションの開催判断前までに発動指令電源の市場退出があった場合は、市場退出した部分を追加。応札上限容量は調整係数反映前の応札容量で判定。

※5 応札した電源等に対して、容量オークションごとに設定する。

2. 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

（2）約定総容量、約定価格、約定総額

【追加オークション】

13

<約定結果>

	約定総容量	約定総額（経過措置控除後）
全国	8,297,383 kW	58,224,982,042円

<約定結果（エリア）>

エリア	エリアプライス	エリア毎の約定容量	エリア毎の約定総額 （経過措置控除後）
北海道	8,749 円/kW	124,419 kW	881,238,563 円
東北	8,749 円/kW	1,214,996 kW	8,618,265,099 円
東京	8,749 円/kW	706,770 kW	5,197,653,464 円
中部	8,749 円/kW	1,703,590 kW	12,463,472,356 円
北陸	8,213 円/kW	22,428 kW	176,477,142 円
関西	8,213 円/kW	2,405,907 kW	16,137,473,142 円
中国	8,213 円/kW	458,932 kW	3,145,163,943 円
四国	8,213 円/kW	23,150 kW	176,760,052 円
九州	8,591 円/kW	1,637,191 kW	11,428,478,281 円

2. 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

（3）約定総容量、約定総額

【全体】

14

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場におけるエリア別の約定総容量・約定総額は下記のとおり。 ※メインオークションの約定分については、2025年5月末時点での契約容量・契約金額で集計。

<約定結果>

	約定総容量	約定総額（経過措置控除後）
全国	165,677,371 kW	877,121,624,598 円

<約定結果（エリア）>

エリア	エリア毎の約定容量	エリア毎の約定総額 （経過措置控除後）
北海道	5,286,973 kW	39,003,196,340 円
東北	17,388,645 kW	87,190,707,443 円
東京	52,430,882 kW	260,045,318,762 円
中部	24,418,938 kW	123,843,845,065 円
北陸	4,734,031 kW	22,863,778,278 円
関西	28,212,686 kW	141,440,400,732 円
中国	8,409,148 kW	41,725,838,535 円
四国	7,763,202 kW	37,474,619,591 円
九州	17,032,866 kW	123,533,919,852 円

2. 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

（4）一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）

【全体】

15

- 追加オークションの結果を反映した、エリア別の一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）は、下記のとおり。

「第83回総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会」（2023年7月31日）での整理に基づき、一般送配電事業者の負担をH3需要の8%相当分とし、小売電気事業者の負担を一般送配電事業者負担分と経過措置控除分を差し引いたものとして試算を行った。調達オークションが開催されたエリアにおける一般送配電事業者の負担総額は、メインオークション、調達オークションの合計額として試算※1した。

エリア	容量拠出金（試算）			
	一般送配電事業者		小売電気事業者	
		差分※2		差分※2
北海道	35.7 億円	4.8 億円	354.3 億円	3.2 億円
東北	63.6 億円	8.6 億円	636.5 億円	18.2 億円
東京	261.4 億円	42.8 億円	2,528.3 億円	68.4 億円
中部	107.8 億円	7.5 億円	1,164.0 億円	35.3 億円
北陸	22.9 億円	2.0 億円	241.6 億円	6.4 億円
関西	124.5 億円	13.9 億円	1,277.7 億円	33.2 億円
中国	47.5 億円	5.1 億円	490.2 億円	12.8 億円
四国	22.0 億円	2.3 億円	227.8 億円	6.0 億円
九州	110.2 億円	17.5 億円	1,055.2 億円	-20.7 億円
計	795.5 億円	104.4 億円	7,975.7 億円	162.8 億円

※1 算定方法については「＜参考＞容量拠出金の算定方法（p.20～p.21）」を参照。

※2 差分はメインオークションの約定結果公表時の試算値との差を示す。

2. 2025年度実施容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果

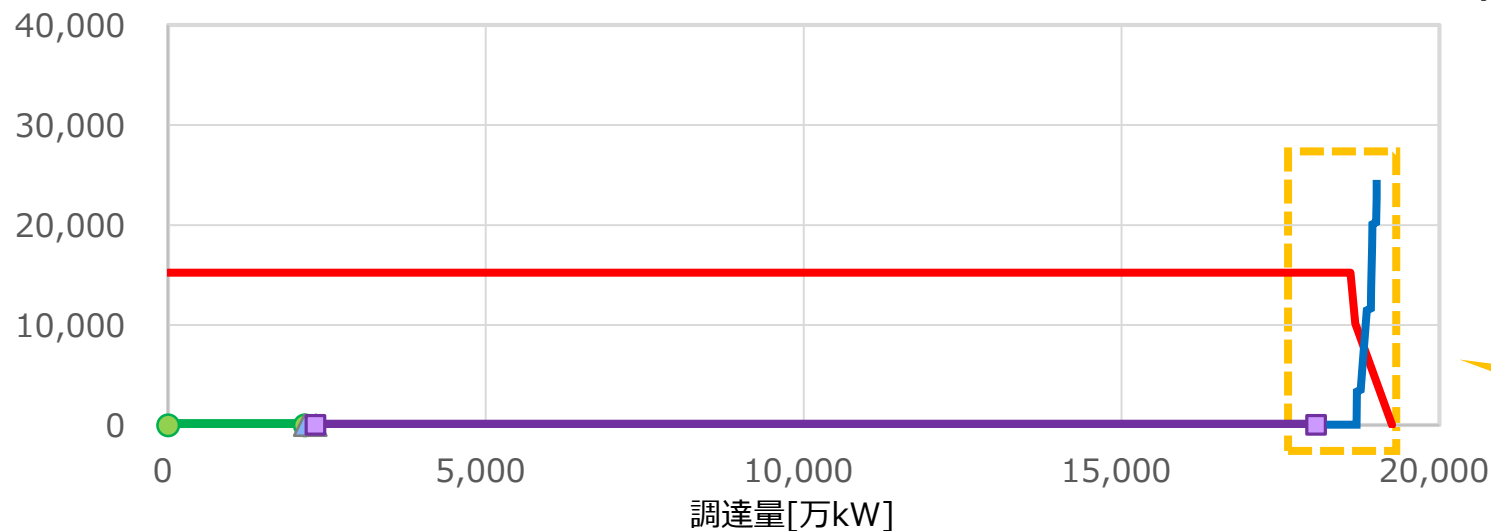
（5）需要曲線と供給曲線

16

■ 需要曲線に対する応札状況（供給曲線※1）は、下記のとおり。

※1 供給曲線を公表するに際して、個社情報を特定できないようにするため、スムージング処理を行った。なお、米国PJMを含め、諸外国における供給曲線の公表も、スムージング処理後の供給曲線を公表している。

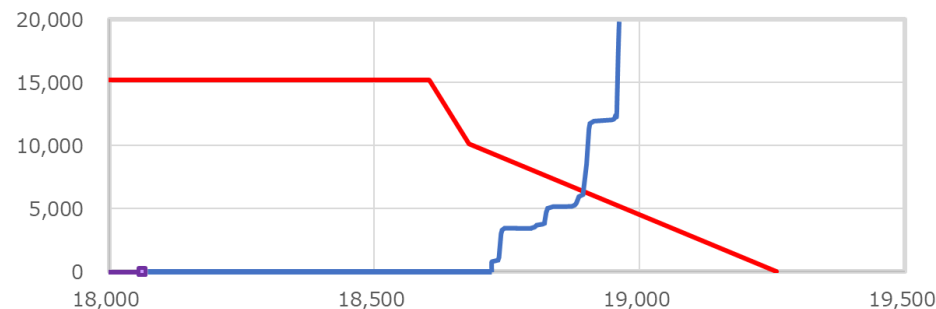
<2025年度実施 容量市場追加オークションの供給曲線（スムージング処理後）>



- 需要曲線 — 供給曲線※2
- FIT電源等の期待容量※3、※4
- ▲ 容量市場外の見込み供給力控除量※4
- 契約容量（2025年3月末時点）

※2 発動指令電源の応札容量については、調整係数反映後の容量としている。
※3 応札後に織込む石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源の供給力を含む。
※4 供給曲線に織込む各容量については「<参考> 追加オークション実施判断時に確保している供給力について（p.18）」を参照。

（約定価格付近の拡大図）



2. 2025年度実施容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果 （6）発動指令電源の調整係数

- 発動指令電源の調整係数は、メインオークション時に事後的に算定した調整係数を用いた。発動指令電源の応札容量の調整係数反映前後の容量は下記のとおり。
- 発動指令電源については、応札容量に調整係数を反映した容量にて約定処理を行った。また、応札容量に調整係数を反映した容量が 1,000kW未満となる応札は無かった。

※発動指令電源の調整係数については、「＜参考＞発動指令電源の調整係数について（p.22～p.23）」を参照。

エリア	発動指令電源の調整係数[%]
	事後的に算定
北海道	63.9935925280152
東北	100
東京	
中部	
北陸	
関西	
中国	
四国	
九州	97.1991352142191

発動指令電源の応札容量[kW]	
調整係数反映前	調整係数反映後 (約定処理に使用)
0	0
25,117	同左
117,740	
1,061	
14,460	
146,227	
40,662	
12,359	
60,953	59,244
418,579	416,870

- 追加オークション実施判断時に確保済の供給力については、追加オークションの開催を決定した際の説明資料において公表している。
 - 容量市場の契約容量は2025年3月末時点の容量を織り込んだ。
 - 石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源については、FIT制度の適用を想定して応札しなかった電源、および応札した結果で非落札となった電源について、応札後にFIT電源等の期待容量に織り込んだ。
 - 容量市場外の供給力（ブラックスタート電源の需給ひっ迫時に活用可能な供給力を含む）として見込まれる状況を考慮して、必要供給力から一定量を控除して容量市場で調達することとした。

		期待容量／供給力
契約容量 (2025年3月末時点)	メインオークションでの契約容量	1億6,271万kW
	市場退出容量等	▲533万kW
FIT電源等の期待容量	太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス	1,581万kW
	石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源の供給力 (応札後に織込む)	566万kW
容量市場外の見込み供給力控除量	一定の蓋然性のある供給力：120万kW BS 電源のひっ迫時に活用できる供給力：57万kW	177万kW

<参考> 約定処理上の市場分断について

【追加オークション】

19

- 全エリアにおいて調達オークションを実施し、需要曲線と供給曲線の交点における全国の供給信頼度は0.007 kWh/kW・年となった。
- 全国の供給信頼度をもとに約定処理上の市場分断の判断を行う全国市場の約定処理後に、**北海道・東北・東京・中部、九州が不足ブロック（エリア）、その他が充足ブロック**となった。
- 不足ブロック（エリア）で、全国の供給信頼度を満たすまで電源の追加処理を行い、追加量は合計4.1万kW（内訳：北海道0.1万kW、九州4万kW）となった。
- 北海道/東北/東京/中部、九州が不足ブロック（エリア）のまま追加できる電源がなくなったため、減少処理は行わなかった。

エリア	全国約定処理後	追加処理(結果)	
	供給信頼度	追加量	供給信頼度
北海道	0.041	+0.1	0.041
東北	0.126		0.126
東京	1.101		1.101
中部	0.007		0.007
北陸	0.000		0.000
関西	0.000		0.000
中国	0.000		0.000
四国	0.000		0.000
九州	0.013	+4	0.012

単位：
追加量[万kW]
供給信頼度[kWh/kW・年]

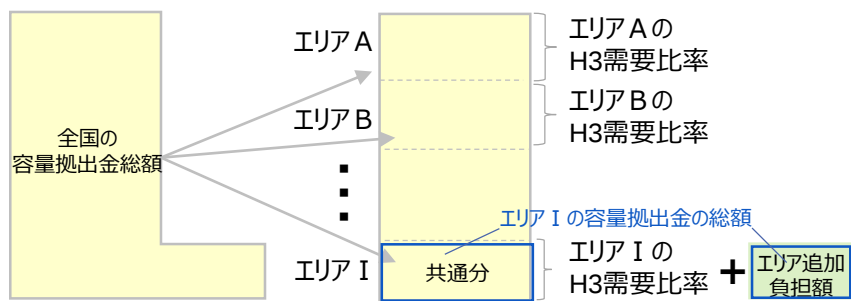
※ 表の背景を、不足エリアについては赤、充足エリアについては青で着色。

※ 供給信頼度は四捨五入による表記上、零になる場合があるが、実際には停電量[kWh/年]が発生している。

- メインオークションで市場が分断される場合における容量拠出金の請求額は、以下の手順で算定を行う。

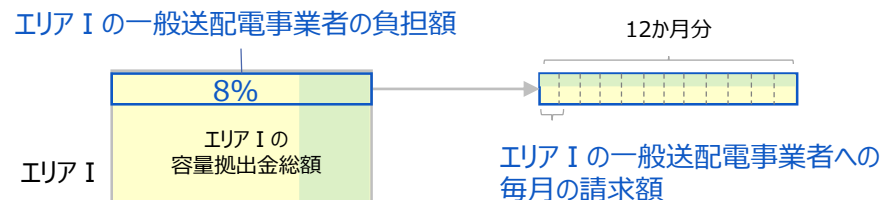
① エリア別の容量拠出金総額の算定

全国の容量拠出金の総額をエリア別のH3需要比率に応じて、各エリアに分配する。



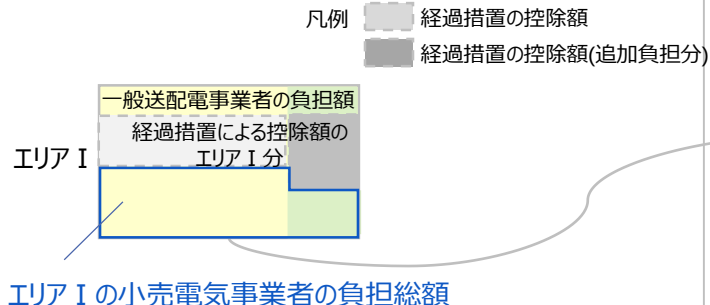
② 一般送配電事業者の負担額と請求額の算定

エリアの約定価格×エリアのH3需要に8%を乗じること、エリア毎に一般送配電事業者の容量拠出金の負担額および毎月の請求額を算定する。



③ 小売電気事業者の負担総額の算定

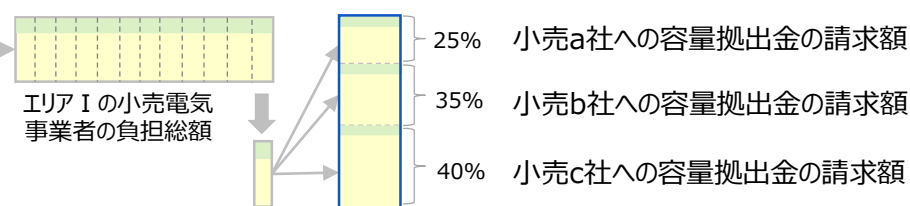
当該エリアの容量拠出金の総額から一般送配電事業者の負担額と経過措置による控除額を減算することで、エリア毎の小売電気事業者の負担総額を算定する。



④ 各小売電気事業者への請求額の算定

エリア毎の小売電気事業者の容量拠出金の負担総額を12等分し、小売各社の配分比率(実需給年の毎月のシェア変動を加味したもの)に応じて毎月の請求額を算定する。

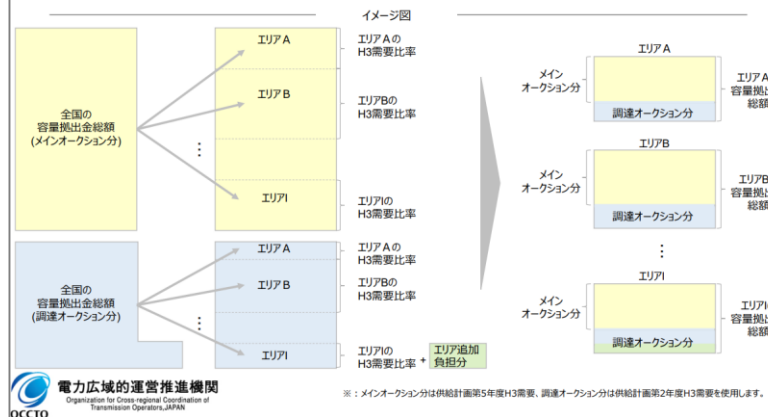
エリアIに小売電気事業者がa・b・cの3社が存在し、小売各社の配分比率を25%、35%、40%とした場合



- 調達オークションで市場が分断される場合における容量拠出金の請求額は、以下の手順で算定を行う。

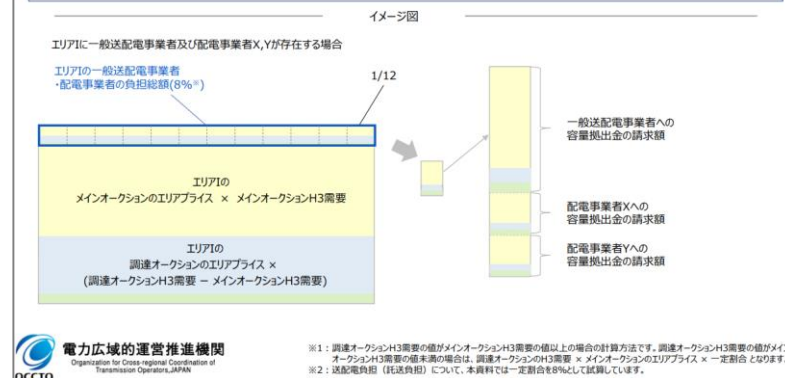
① エリア別の容量拠出金総額の算定

- エリア別容量拠出金総額は、メインオークション約定結果としての容量拠出金総額及び調達オークション約定結果としての容量拠出金総額をエリア別のH3需要比率^{※1}に応じて、各エリアに配分することで算定します。



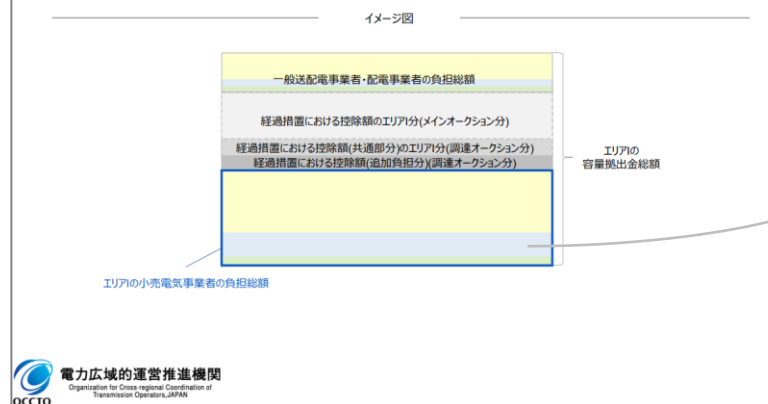
② 一般送配電事業者の負担額と請求額の算定

- 一般送配電事業者・配電事業者の負担総額は、メインオークションのエリアプライスとH3需要を掛け合わせた値に、調達オークションのエリアプライスに調達オークションH3需要からメインオークションのH3需要を差し引いた値を掛け合わせた値を足した値^{※1}に一定割合^{※2}を乗じることで算定します。また請求額については、一般送配電事業者・配電事業者の負担総額を12等分し、各一般送配電事業者・配電事業者の配分比率に応じて毎月の請求額を算定します。



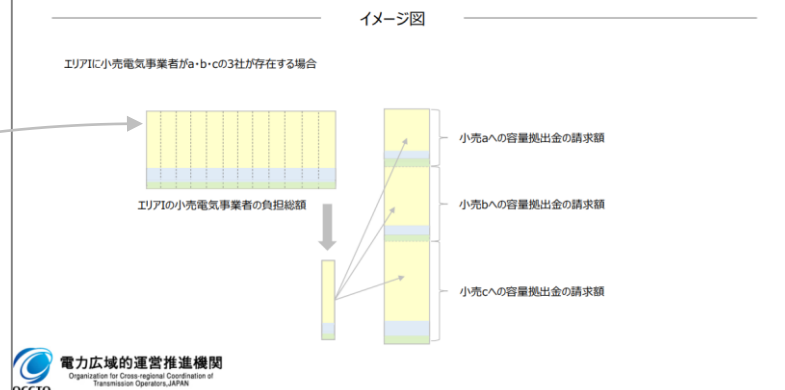
③ 小売電気事業者の負担総額の算定

- 小売電気事業者の負担総額は、当該エリアの容量拠出金総額から一般送配電事業者・配電事業者の負担総額と経過措置における控除額を減算することで算定します。



④ 各小売電気事業者への請求額の算定

- 各小売電気事業者への請求額は、エリア毎の小売電気事業者の容量拠出金の負担総額を12等分し、小売各社の配分比率に応じて毎月の請求額を算定します。



- 発動指令電源が一定の導入量を超える場合には、供給信頼度を確保する観点から**調整係数の設定が必要**であると整理された。
- 発動指令電源の調整係数は、応札上限容量を設定※1した上で実際の**メインオークションにおける応札容量に追加オークションの導入量を反映した容量をもとに調整係数を事後的に算定し、調整係数を反映後の応札容量※2にて約定処理を行い落札電源を決定**する。

※1 対象実需給年度2026年度の応札上限容量はメインオークション4%、追加オークション1%に設定

※2 応札容量に調整係数を反映した容量が1,000kW未満となる場合は、当該電源等については非落札電源とする

第62回 制度検討
作業部会資料より

第38回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

発動指令電源の募集量について

- 第2回メインオークションの約定結果においては、発動指令電源の調達量上限であるH3需要の3%（475万kW）を超過する566万kWの応札があった。
- 今後、再生可能エネルギーが更に増加していき、発動指令電源として期待されるDRを含めたアグリゲータの組成や市場参入が期待される中で、更なる市場参加者の拡大を促すことが望ましいと考えられるが、DRの促進と供給信頼度のバランスについて、以下の点も踏まえて検討する必要がある。
 - ① 調整係数の在り方
一定の募集量を超える場合には、供給信頼度を確保する観点からは調整係数の設定が必要。
 - ② 想定導入量
調整係数を事前に決定する場合は、導入量も事前に想定する必要
 - ③ 発動指令電源の能力
実効性テストや実需給の運用を迎えていない状況で、募集量を増加させるべきか。
 - ④ 追加オークションにおける調達
メインオークションと追加オークションの配分、追加オークションの実施の在り方をどのように考えるか。
 - ⑤ 同一価格の応札が複数存在した場合の約定処理
同一価格の応札で調達量上限を超えた場合の約定処理について。

3. メインオークション募集要綱（案）と約款（案）の主なポイント

②発動指令電源の募集量等（1／4）

2022年度オークションに向けた検討

■ 発動指令電源の募集量等

- 募集量等の設定については、現行の4%から全体として5%に拡充する。
（メインオークション4%+追加オークション1%）
- 発動指令電源は、応札容量に調整係数を乗じた容量により約定処理を実施する。
- 調整係数の設定方法については、事後的に算定することとする。

募集要綱・約款への反映内容

- メインオークションにおける発動指令電源の応札上限容量、約定方法の表記を変更【募集要綱】
- 調整係数の公表時期について、メインオークションの約定結果公表日に公表することを記載【募集要綱】

- 調整係数が適用される電源の調達量（kW価値、期待容量）は、導入量に調整係数を反映した容量となる。
- 約定した発動指令電源については、**調整係数を反映後の応札容量が契約容量**となるが、発動指令が発令された場合において、**調整係数を反映前の応札容量（導入量）を提供※する必要**がある。

※ 発動指令電源のアセスメントでは、調整係数反映前の容量の供給力を3時間継続して提供することでリクワイアメント達成となる

第37回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

第37回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

4. 発動指令電源の信頼度評価について

③想定導入量と調達量の関係について

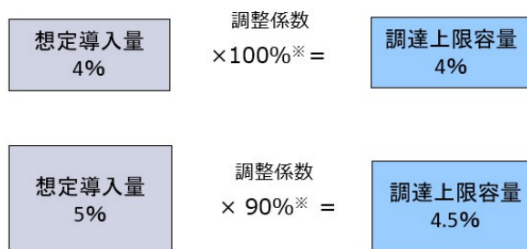
14

- 容量市場で調達する供給力において、調達量（kW価値、期待容量）は、調整係数が設定される電源については、導入量に調整係数を乗じた値となる。
- 想定導入量を増加させた場合、調整係数が100%未満となることで導入量と調達量（kW価値、期待容量）が等価とならないことがある。

<調達量（kW価値、期待容量）>

$$\text{調達量} = \text{導入量} \times \text{調整係数}$$

<想定導入量と調達上限容量のイメージ>



※調整係数はイメージ

第33回容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

4. 発動指令電源の信頼度評価について

①供給信頼度の算定方法について

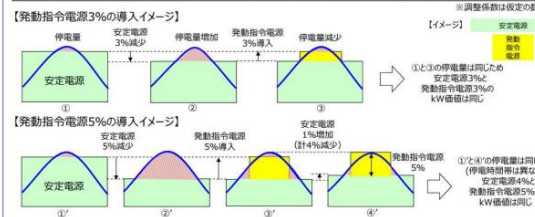
9

- 供給信頼度評価における再エネや一般水力、発動指令電源の評価方法は、国の審議会や調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で整理され、安定電源代替価値として評価が行われている。
- また、容量市場に用いられる年間調整係数においても、従来の再エネの供給信頼度評価と同様に、追加設備量の減少に寄与できる量を調整係数に反映させることとしている。
- なお、発動指令電源に調整係数が用いられた場合は、発動時において、約定した契約量ではなく導入量を提供することとなる。

4. 発動指令電源の信頼度評価について

第33回容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

- 信頼度評価の結果を以下のイメージ図で説明すると、発動指令電源3%の導入イメージでは、安定電源を3%減少させることが可能なため、kW価値は同じとなり調整係数100%と評価される。
- 次に、発動指令電源5%の導入イメージでは、安定電源を4%しか減少させることができないため、調整係数は80%と評価される。（ $4 \div 5 \times 100 = 80$ ）
- ※調整係数は、安定電源を発動指令電源の導入量と置き換えた際、停電量が同じになるそれぞれの容量から算定
- なお、発動指令電源5%に調整係数を乗じた結果、契約容量は4%となるが、リクワイアメントは5%の供給力を提供することとなる。（5%の供給力を提供することにより、4%分のkW価値が得られるため）



- 2025年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2026年度）の約定結果について、現時点の集計結果に基づき、以下の項目の公表を行う。

- （1）供給信頼度
- （2）電源等の応札容量
- （3）応札容量と落札容量（落札率）
- （4）発電方式別の応札容量
- （5）落札されなかった電源の応札容量
- （6）一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）
- （7）応札価格の加重平均
- （8）応札価格の分布
- （9）追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力
- （10）追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

3. オークション結果の集計・公表

(1) 供給信頼度 [1/2]

【追加オークション】

25

- 約定処理の結果、全国の供給信頼度は0.007 kWh/kW・年、調達オークション後に確保している供給力における供給信頼度とブロック構成は下記のとおりとなった。
- 以降では、エリアプライスの異なる北海道・東北・東京・中部、九州とそれ以外のブロック（エリア）で区分した集計も行う。

		供給信頼度 [kWh/kW・年]	
目標とする供給信頼度		0.007	
エリア	供給信頼度※ ¹ [kWh/kW・年]	想定需要※ ²	確保している供給力※ ³
北海道	0.041	502 万kW	630 万kW
東北	0.126	1,356 万kW	2,098 万kW
東京	1.101	5,518 万kW	5,651 万kW
中部	0.007	2,311 万kW	2,716 万kW
北陸	0.000	490 万kW	642 万kW
関西	0.000	2,668 万kW	3,003 万kW
中国	0.000	1,018 万kW	1,319 万kW
四国	0.000	472 万kW	887 万kW
九州	0.012	1,569 万kW	1,946 万kW
合計		1億5,905 万kW	1億8,892 万kW

※¹ 供給信頼度は四捨五入により表記上、零になる場合があるが、実際には停電量[kWh/年]が発生している。

※² 追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）。

※³ 追加オークション実施判断時に確保済みの供給力（全国計で1億8,062万kW）を含む。

3. オークション結果の集計・公表

(1) 供給信頼度 [2/2]

【追加オークション】

- 全エリアにおいて調達オークションを実施し、需要曲線と供給曲線の交点における全国の供給信頼度は0.007 kWh/kW・年となった。
- 全国の供給信頼度をもとに約定処理上の市場分断の判断を行う全国市場の約定処理後に、**北海道・東北・東京・中部、九州が不足ブロック（エリア）、その他が充足ブロック**となった。
- 不足ブロック（エリア）で、全国の供給信頼度を満たすまで電源の追加処理を行い、追加量は合計4.1万kW（内訳：北海道0.1万kW、九州4万kW）となった。
- 北海道/東北/東京/中部、九州が不足ブロック（エリア）のまま追加できる電源がなくなったため、減少処理は行わなかった。

エリア	全国約定処理後	追加処理(結果)	
	供給信頼度	追加量	供給信頼度
北海道	0.041	+0.1	0.041
東北	0.126		0.126
東京	1.101		1.101
中部	0.007		0.007
北陸	0.000		0.000
関西	0.000		0.000
中国	0.000		0.000
四国	0.000		0.000
九州	0.013	+4	0.012

単位：
追加量[万kW]
供給信頼度[kWh/kW・年]

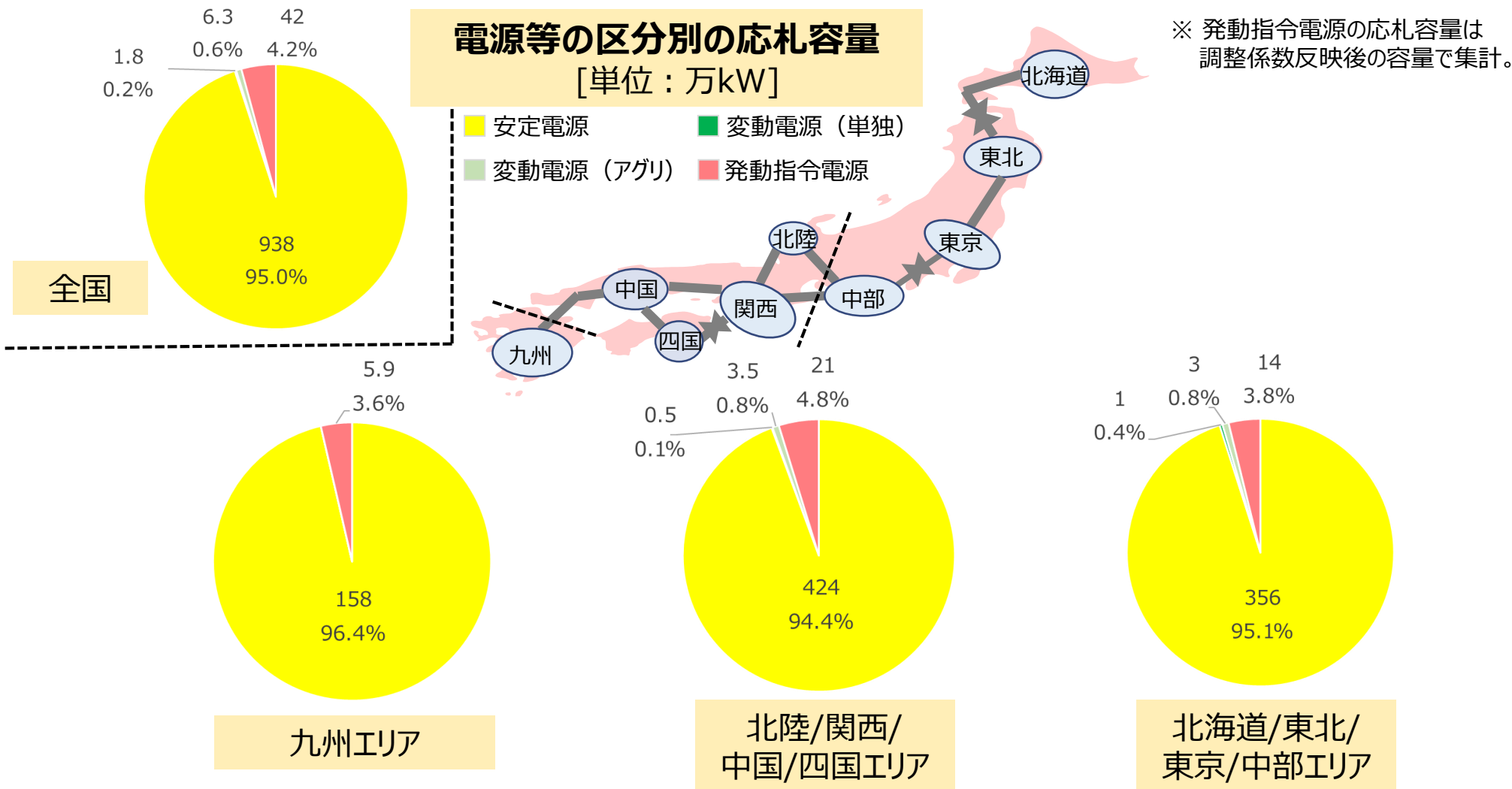
3. オークション結果の集計・公表

(2) 電源等の応札容量

【追加オークション】

27

- 全国の応札容量は合計で988万kW、そのうち電源等の区分別に、安定電源が 938万kW (95.0%)、変動電源 (単独) が 1.8万kW (0.2%)、変動電源 (アグリゲート) が 6.3万kW (0.6%)、発動指令電源が 42万kW (4.2%) であった。



3. オークション結果の集計・公表

(3) 応札容量と落札容量（落札率）

【追加オークション】

28

- 全国の電源等の区分別の落札率は、安定電源が83.2%、変動電源（単独）・変動電源（アグリゲート）・発動指令電源がいずれも100%であった。また、全体の落札率は84.0%だった。

※ 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

電源等の区分別の落札率

[単位：万kW、%]

全国

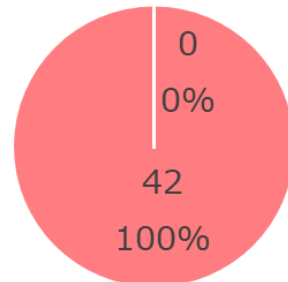
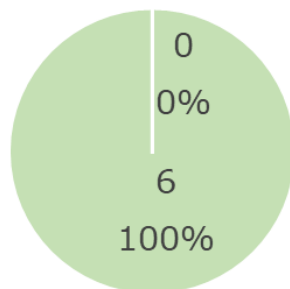
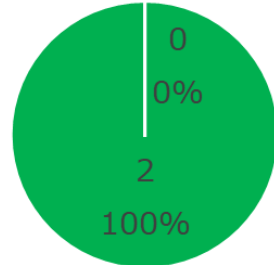
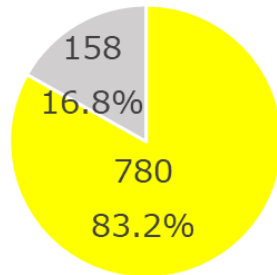
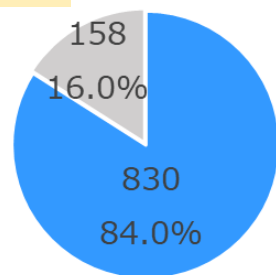
合計

安定

変動（単独）

変動（アグリ）

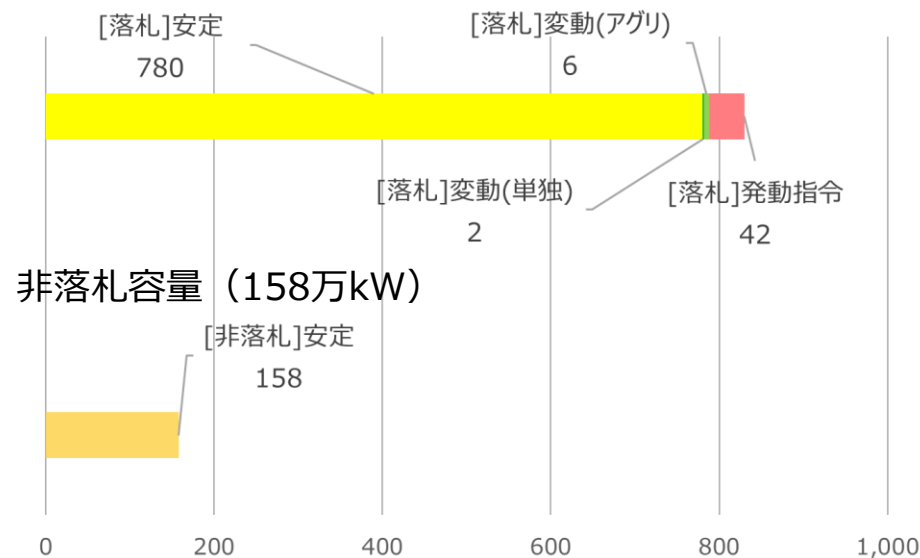
発動指令



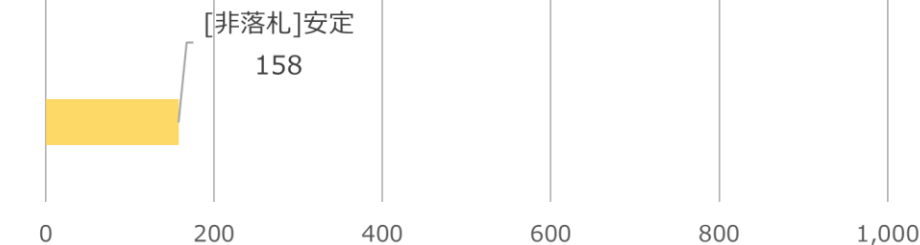
電源等の区分別の落札容量

[単位：万kW、%]

落札容量（830万kW）



非落札容量（158万kW）



[万kW]

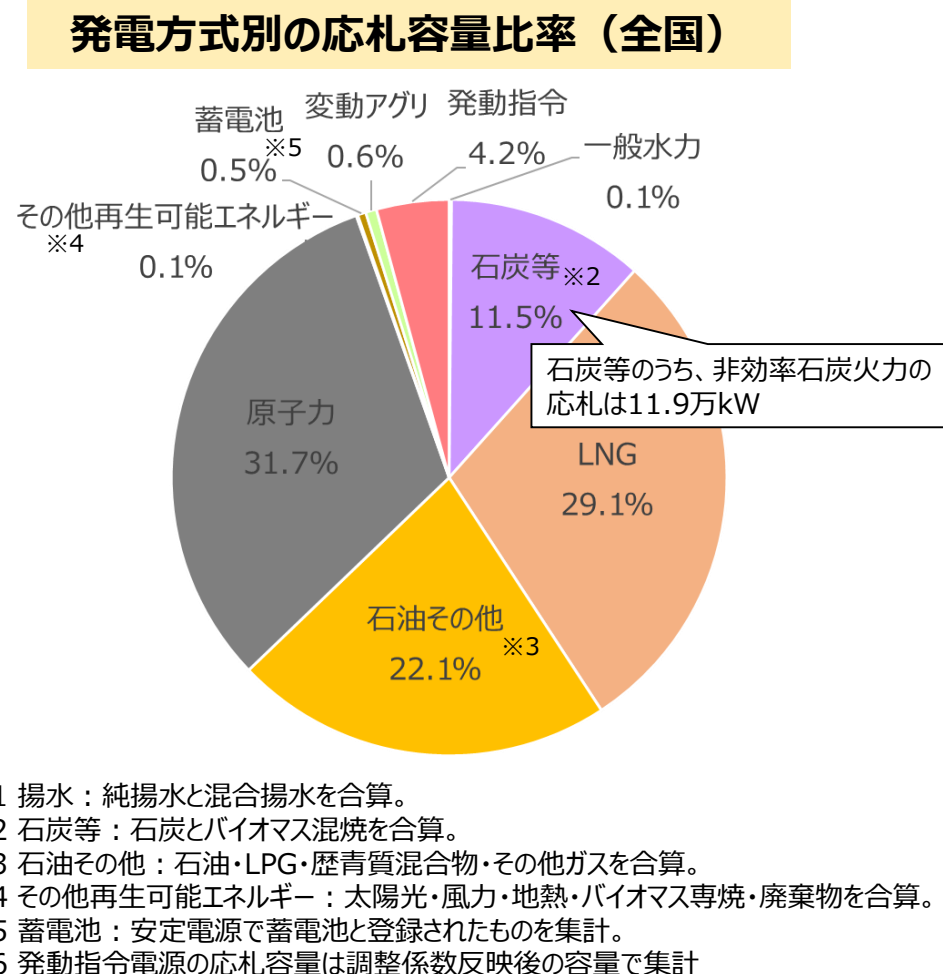
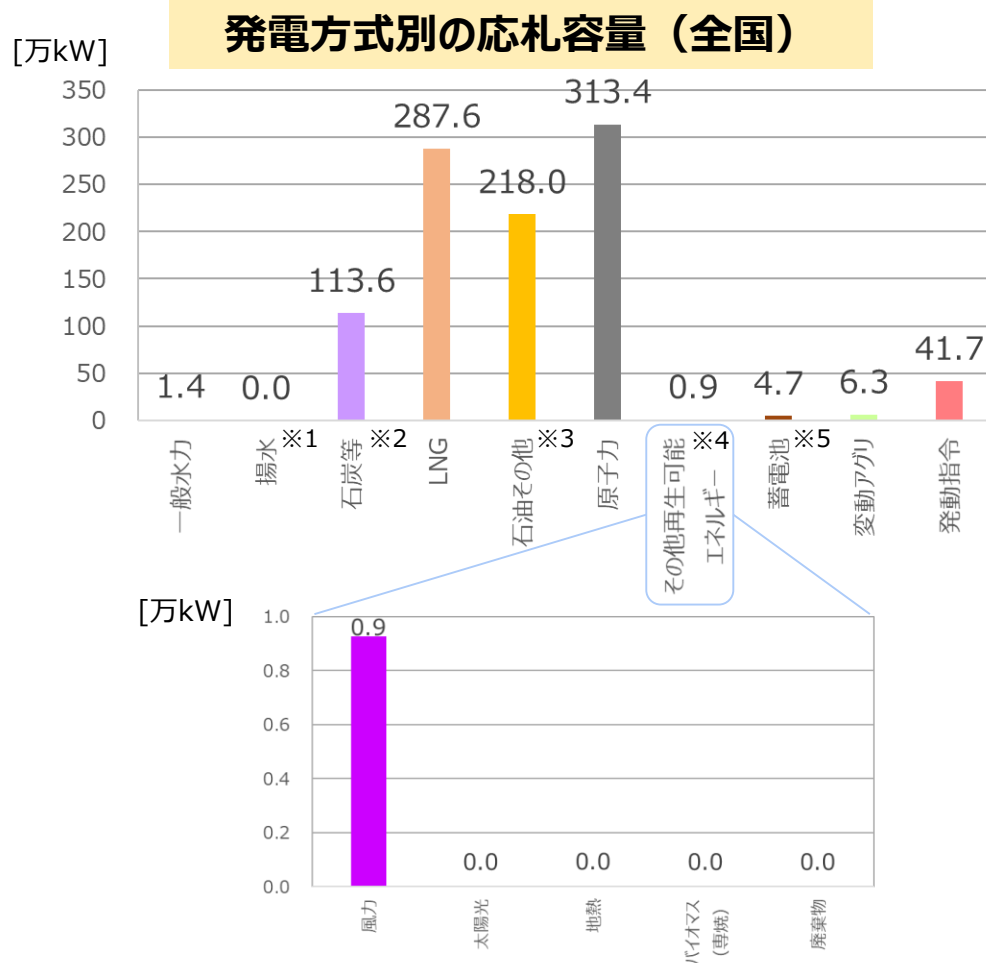
3. オークション結果の集計・公表

(4) 発電方式別の応札容量

【追加オークション】

29

- 全国の発電方式別の応札容量とその比率は、一般水力:1.4万kW (0.1%)、石炭等:113.6万kW (11.5%)、LNG:287.6万kW (29.1%)、石油その他:218.0万kW (22.1%)、原子力:313.4万kW (31.7%)、その他再生可能エネルギー:0.9万kW (0.1%)、蓄電池:4.7万kW (0.5%)、変動(アグリ):6.3万kW (0.6%)、発動指令:41.7万kW (4.2%)であった。



3. オークション結果の集計・公表

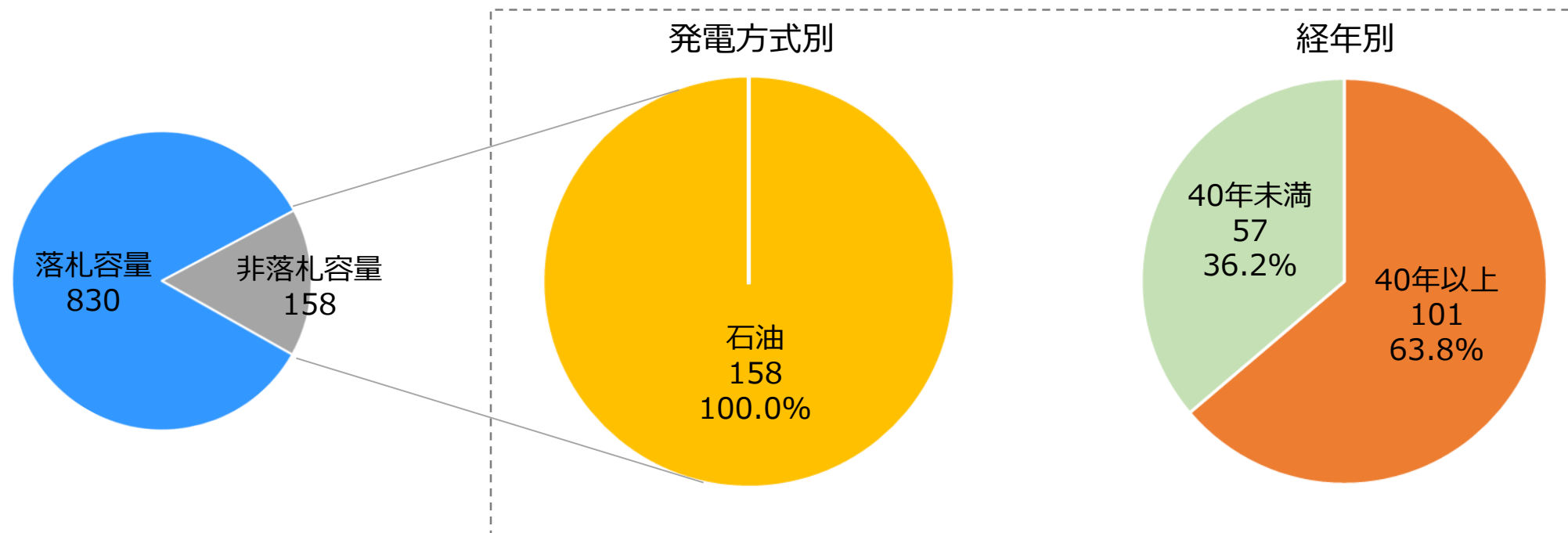
(5) 落札されなかった電源の応札容量

【追加オークション】

30

- 落札されなかった電源の応札容量は158万kWであった。発電方式別では石油の火力が全数を占めた。また、経年40年※¹以上の電源の割合は63.8%であった。

※1 経年は実需給年度（2026年度）を起点に算定。



[単位：万kW]

3. オークション結果の集計・公表

(6) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）

【全体】

- 追加オークションの結果を反映した、エリア別の一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）は、下記のとおり。

「第83回総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会」（2023年7月31日）での整理に基づき、一般送配電事業者の負担をH3需要の8%相当分とし、小売電気事業者の負担を一般送配電事業者負担分と経過措置控除分を差し引いたものとして試算を行った。調達オークションが開催されたエリアにおける一般送配電事業者の負担総額は、メインオークション、調達オークションの合計額として試算※1した。

エリア	容量拠出金（試算）			
	一般送配電事業者		小売電気事業者	
		差分※2		差分※2
北海道	35.7 億円	4.8 億円	354.3 億円	3.2 億円
東北	63.6 億円	8.6 億円	636.5 億円	18.2 億円
東京	261.4 億円	42.8 億円	2,528.3 億円	68.4 億円
中部	107.8 億円	7.5 億円	1,164.0 億円	35.3 億円
北陸	22.9 億円	2.0 億円	241.6 億円	6.4 億円
関西	124.5 億円	13.9 億円	1,277.7 億円	33.2 億円
中国	47.5 億円	5.1 億円	490.2 億円	12.8 億円
四国	22.0 億円	2.3 億円	227.8 億円	6.0 億円
九州	110.2 億円	17.5 億円	1,055.2 億円	-20.7 億円
計	795.5 億円	104.4 億円	7,975.7 億円	162.8 億円

※1 算定方法については「＜参考＞容量拠出金の算定方法（p.20～p.21）」を参照。

※2 差分はメインオークションの約定結果公表時の試算値との差を示す。

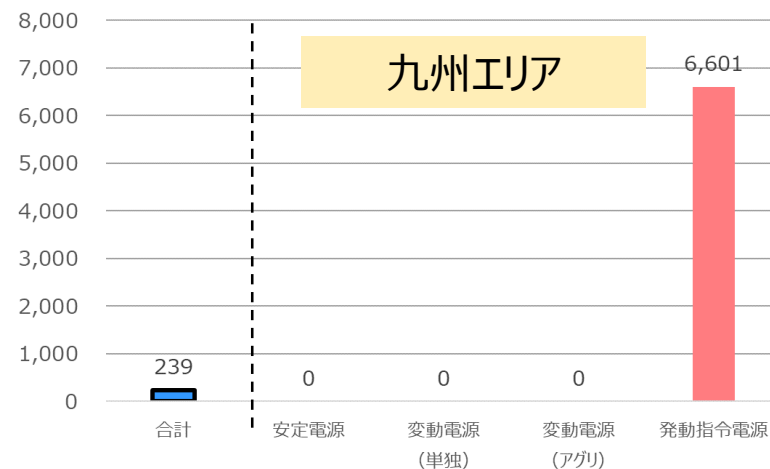
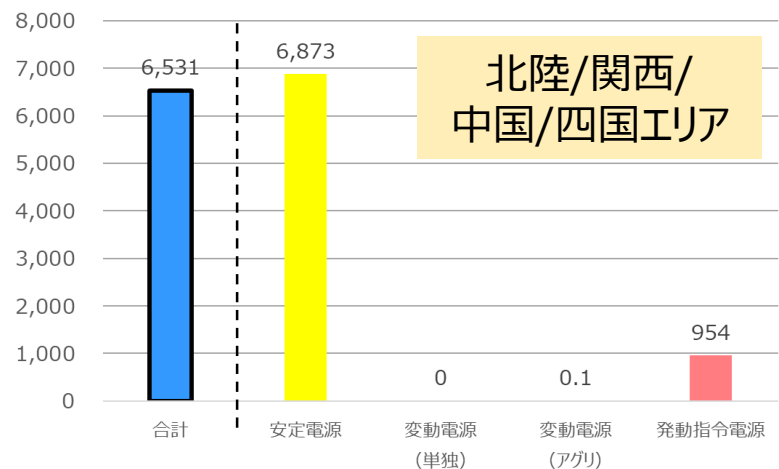
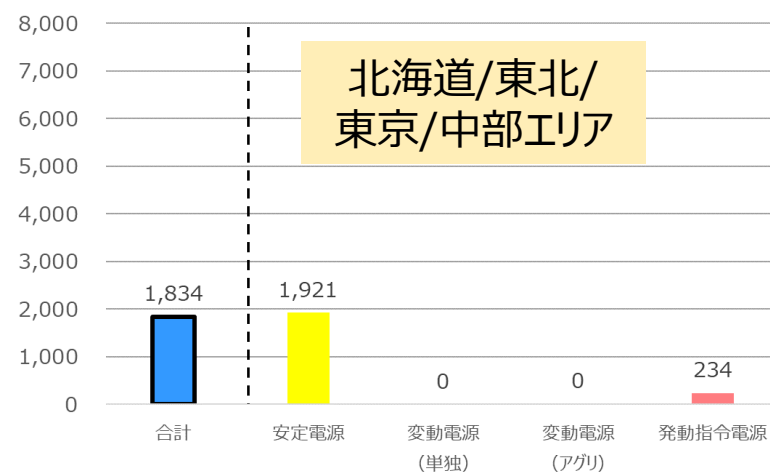
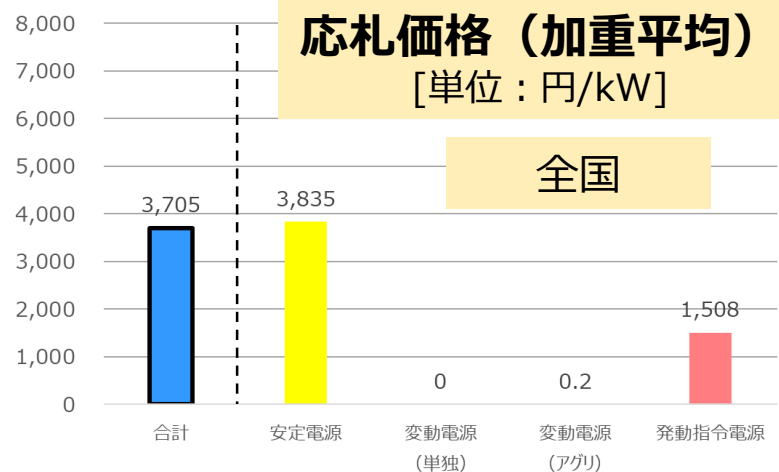
3. オークション結果の集計・公表

(7) 応札価格の加重平均

【追加オークション】

32

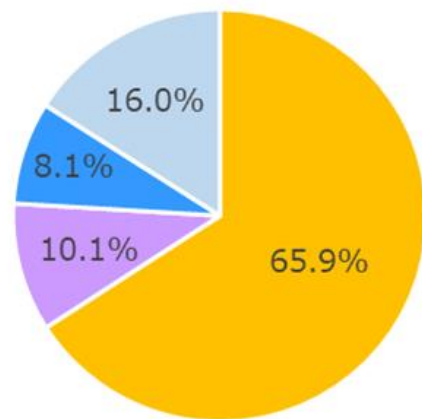
- 全国の応札価格の加重平均は3,705円/kWであった。電源等の区分別では、安定電源が3,835円/kW、変動電源（単独）が0円/kW、変動電源（アグリゲート）が0.2円/kW、発動指令電源が1,508円/kWであった。
- エリア・ブロックでは、北海道/東北/東京/中部エリア：1,834円/kW、北陸/関西/中国/四国エリア：6,531円/kW、九州エリア：239円/kWであった。



3. オークション結果の集計・公表
(8) 応札価格の分布

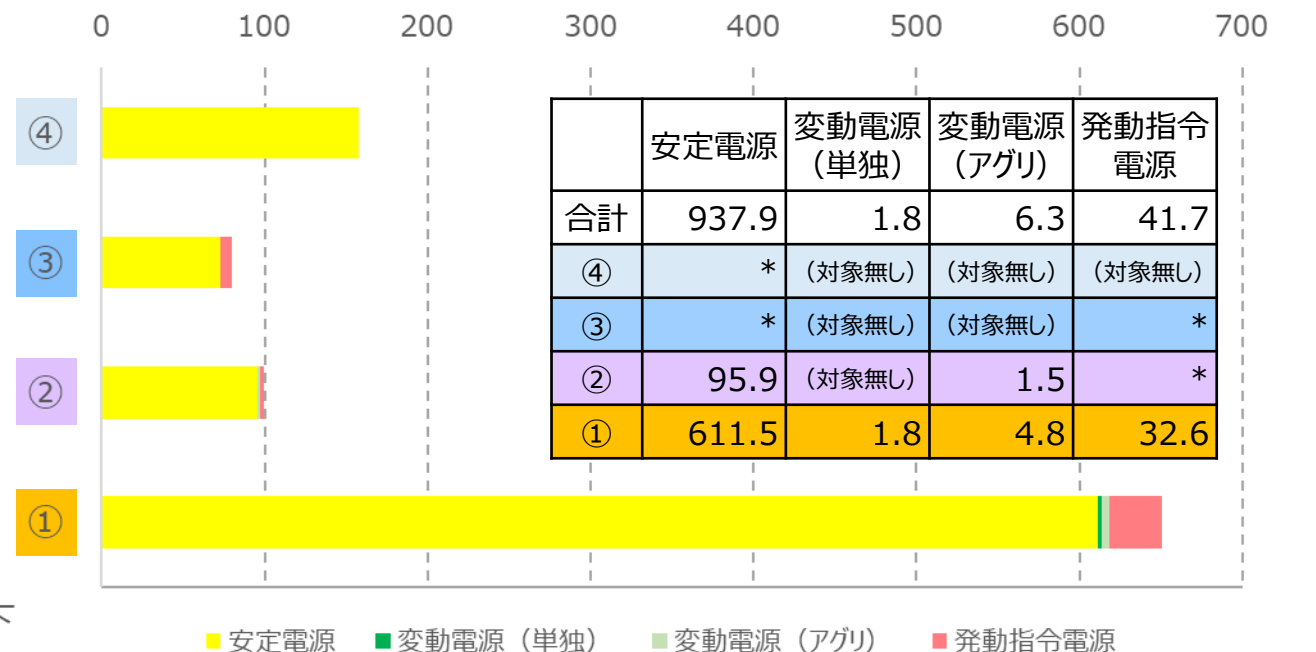
- 応札価格を「①0円」「②～Net CONEの50%以下」「③～Net CONE以下」「④Net CONE超」の4つの区分にした応札価格の分布は下記のとおり。※Net CONE：10,156円/kW
- 「①0円」は65.9%、「②～Net CONEの50%以下」は10.1%、「③～Net CONE以下」は8.1%、「④Net CONE超」は16.0%であった。
- なお、変動電源（単独）では全ての応札価格が0円/kWだった。

応札価格の分布



- ④NetCONE超
- ③NetCONE×50%超～NetCONE以下
- ②ゼロ円超～NetCONE×50%以下
- ①ゼロ円

電源等の区分別の分布



* 3者未満のデータとなるため記載しない。
※ 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

3. オークション結果の集計・公表

(9) 追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力

【全体】

34

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場での約定総容量は合計で1億6,568万kW、そのうち電源等の区別に、安定電源が1億5,660万kW、変動電源（単独）が431万kW、変動電源（アグリゲート）が55万kW、発動指令電源が422万kWとなった。

確保している供給力

■ 容量市場での約定総容量※1	16,568 万kW 87.7 %
■ 安定電源	15,660 万kW 82.9 %
■ 変動電源（単独）	431 万kW 2.3 %
■ 変動電源（アグリ）	55 万kW 0.3 %
■ 発動指令電源※2	422 万kW 2.2 %
■ FIT電源等の期待容量	2,147 万kW 11.4 %
■ 容量市場外の見込み供給力控除量	177 万kW 0.9 %
確保している供給力	18,892 万kW

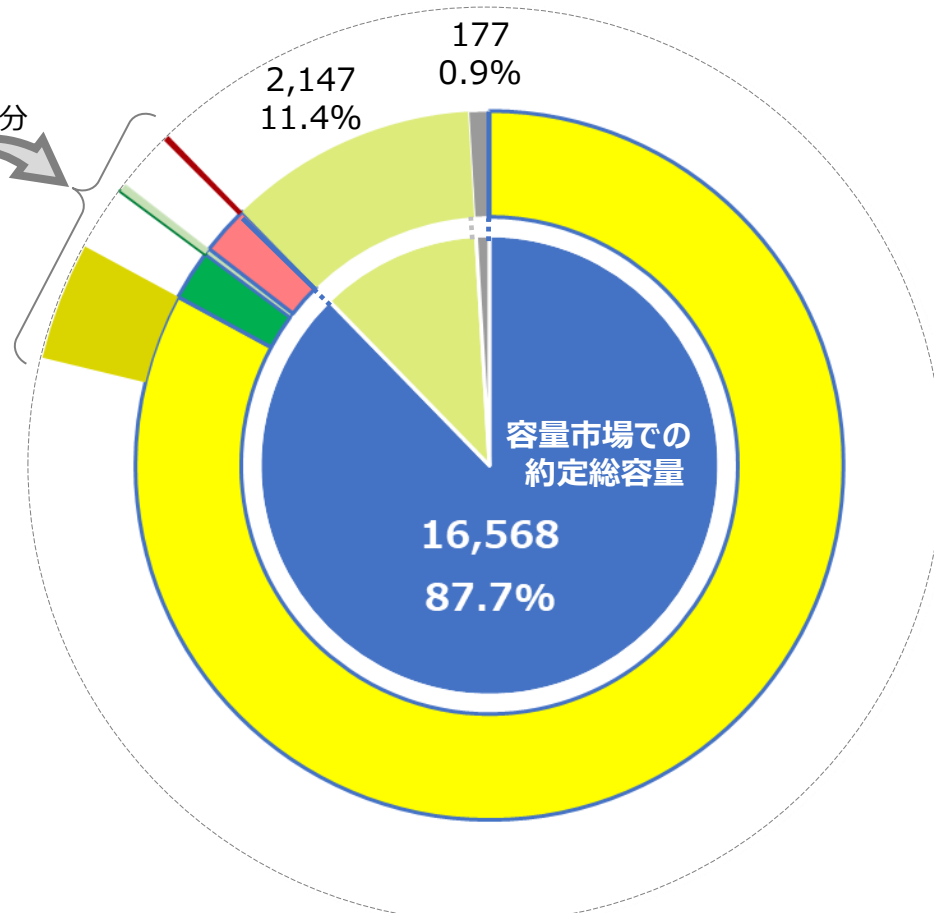
(内数)
追加オークション約定分

780 万kW
4.1%

2 万kW
0.01%

6 万kW
0.03%

42 万kW
0.2%



※1 メインオークションの約定分については、2025年5月末時点での契約容量で集計。※2 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

3. オークション結果の集計・公表

(10) 追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

【全体】

35

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場における調整機能あり電源の約定総容量は下記のとおり。

	調整機能あり 電源の約定総容量※1			(参考) 確保している供給力※2
		(内) LNG	(内) 揚水	
全国	12,417 万kW	6,069 万kW	2,186 万kW	1億8,892 万kW
北海道	452 万kW	54 万kW	76 万kW	630 万kW
東北	1,255 万kW	656 万kW	45 万kW	2,098 万kW
東京	4,387 万kW	2,512 万kW	877 万kW	5,651 万kW
中部	2,235 万kW	1,353 万kW	358 万kW	2,716 万kW
北陸	352 万kW	88 万kW	11 万kW	642 万kW
関西	1,604 万kW	694 万kW	373 万kW	3,003 万kW
中国	608 万kW	243 万kW	183 万kW	1,319 万kW
四国	586 万kW	86 万kW	65 万kW	887 万kW
九州	938 万kW	383 万kW	199 万kW	1,946 万kW

※1 メインオークションの約定分については、2025年5月末時点での契約容量で集計。

※2 FIT電源等の期待容量、容量市場外の見込み供給力控除量を含む（全国計で2,324万kW）。

■ 容量市場のオークション結果について、以下の項目の対象実需給年度ごとの推移を示す。

(1) 調整機能あり電源の契約容量

4. オークション結果の推移

(1) 調整機能あり電源の契約容量

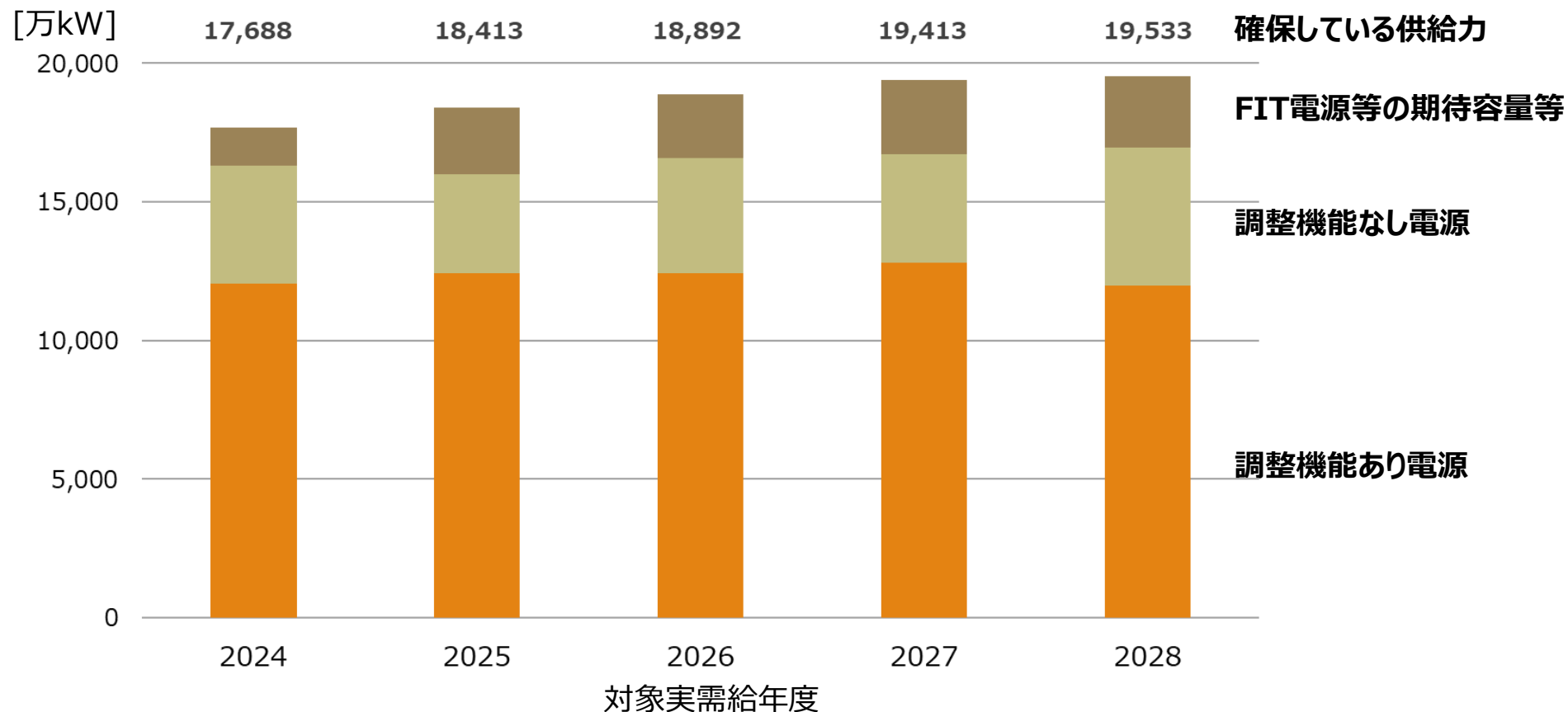
【全体】

37

■ これまでのオークションにおける「調整機能あり電源の契約容量」などの推移は下記のとおり。

※ 各オークションでの約定容量は2025年7月時点での契約容量で集計。

※ 2027年度以降については長期脱炭素電源オークション調達分が含まれる



<各種資料等参照先>

- ・容量市場に関するお知らせ等

<https://www.occto.or.jp/market-board/market/index.html>

- ・かいせつ容量市場スペシャルサイト

<https://www.occto.or.jp/capacity-market/index.html>

- ・容量市場の在り方等に関する検討会

<https://www.occto.or.jp/iinkai/youryou/index.html>

- ・容量市場説明会資料・動画

https://www.occto.or.jp/market-board/market/youryou_setsumeikai.html

- ・総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会
電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会

中間とりまとめ（平成30年7月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20180713_01.pdf

第二次中間とりまとめ（令和元年7月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20190724_01.pdf

第三次中間とりまとめ（令和2年7月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20200730_01.pdf

第四次中間とりまとめ（令和3年6月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20210614_1.pdf

第七次中間とりまとめ（令和4年7月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20220714_1.pdf

第十三次中間とりまとめ（令和5年8月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20230810_1.pdf

第十五次中間とりまとめ（令和6年4月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20240403_1.pdf

<お問い合わせ先> 以下URLの「お問合せフォーム」よりお問合せください。

<https://www.occto.or.jp/market-board/market/otoiawase/otoiawase.html>